

和装家に 聞く

今日の和装家は小林龍生さん
(聞き手／四季誌和装家編集 佐藤正樹)

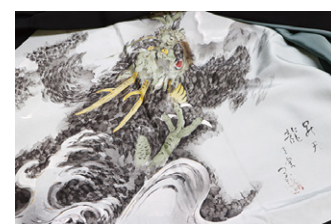
小林さんにインタビューをお願いしたのは
サムライ会のご挨拶での「涙」がきっかけでした。

男きもの専門店「銀座SAMURAI」にとって、もっとも大切な存在のお一人、小林龍生さんのいつもさりげない存在感は、歳を重ねる男性の二つの理想像であると思います。およそ13年前にもなりますが、私が編集に携わっていた雑誌で、豊かな表現力を持ったレポートを書いていただいたのが縁のはじまりでした。

もう13年近くになるんですね、飛鳥IIの乗船レポートを書いていただいていたから
小林さん「あの時は、ぼくの文章をほぼそのままに、上手に構成されていて、感心したことを覚えています」

ありがとうございます、お世辞じゃなく、あのレポートは完成度が半端なく高かったで、いじれなかったというのが本当のところなんです。
小林さん「あの時は楽しかったですね。おかげで、今はク

男きもの専門店「銀座SAMURAI」にてインタビューさせていただきました。写真は同店の梅田みゆき店長(和装家元)と。



龍生さんの「龍」コレクション



ルーズマニアになってしまいました(笑)」

ところで今回、インタビューをお願いしたきっかけは先日サムライ11周年パーティでのご挨拶で小林さんが思い出す。その涙の理由に、どうも男きもの魅力を深掘りするネタがありそうだと直感したのですが
小林さん「サムライ開店以前、日本和装の男きもの教室

小林さんには2012年10月発行の日本和装ホールディングス株式会社の会報誌「小袖」55号で飛鳥IIクルーズレポートを執筆いただきました。



で出会った中井さん(故人)のことが思い出されて、涙腺が緩んでしまいました。中井さんは、ぼくのきもの史には欠かせない方なんです。そしてサムライが11周年を迎えられたのも、開店当初の中井さんの応援が大いに貢献しているんじゃないでしょうか。夫婦同士でもお付き合いいただき、楽しく、頼りになる友人でしたし、気のあう飲み仲間でもありました」

きものの輪がどんどん広がっていききました。彼も三年ほど前に急逝されてしまい残念でなりません。男きもの新たな灯火を作った仲間のことを、これからもサムライ会があるたびに思い出してほしいですね。銀座に生まれた男きもの灯火をぜひ絶やさずにしてほしいですね」

たくさんのお話をいただきましたが、誌面の都合でも限られたものになってしまいました。女性のきもの仲間はおおよそ華やかで、時には美しさを競いあう友達関係も生まれますが、男性の場合は、小林さんと中井さん、渡辺さんのように、しつとりした友情が育まれることがあるのかもしれない。ジェンターレスな世の中において、違反する感想かもしれませんけど。

故渡辺文雄氏と片見替で作ったきもの。2022年に急逝した渡辺氏とのきものを通じての交流は大変、意味あるものだったとのこと。



和装家 活躍レポート

能登復興支援で チャリティーファッションショー

5月17日、和装家の伊藤洋子さんの企画・運営で東京品川区の「日蓮宗 妙建山 本立寺」で開催されました。たくさんの和装家がファッションショーのモデルになり、チャリティーにも協力しました。その様子はテレビ東京や北國新聞でも紹介されました。伊藤さんと参加者のみなさんから提供いただいた写真で紹介します。



今回の企画をされた和装家の伊藤洋子さん(写真左)



お寺でファッションショー

去年 地震と豪雨の被害にあった石川県能登の伝統的な着物や工芸品

テレビ東京のニュースでも紹介されました。